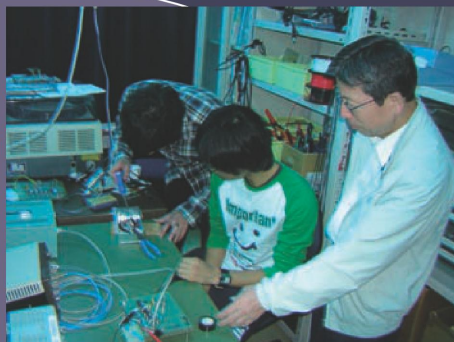
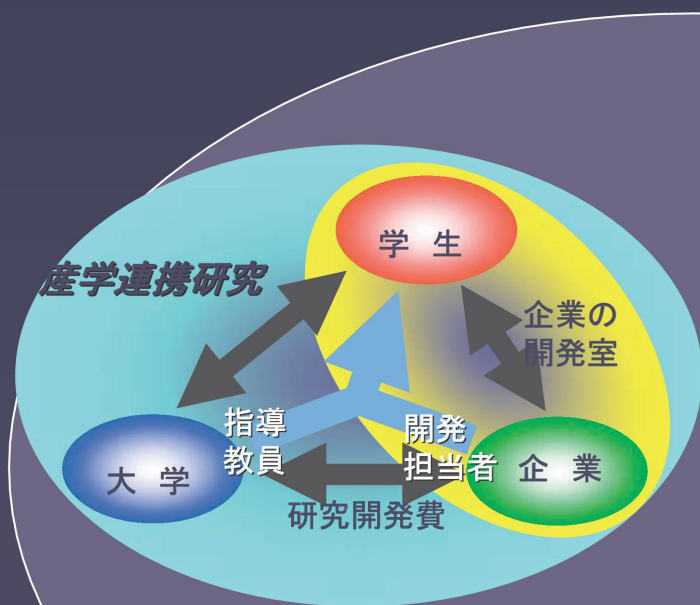


文部科学省大学院教育改革支援プログラム
平成20年度～22年度

東大阪モノづくり イノベーションプログラム

成果報告書
平成22年12月



教育の産学連携

近畿大学大学院
総合理工学研究科

文部科学省大学院教育改革支援プログラム

平成20年度～22年度

**東大阪モノづくり
イノベーションプログラム**

成果報告書

平成22年12月

**近畿大学大学院
総合理工学研究科**

目 次

東大阪モノづくりイノベーションプログラム 取組代表者・総合理工学研究科 教授 沖 幸男	1
質を第一とした企業経営に必要なマネジメントツールの実践（品質経営） 「QC 的ものの見方・考え方と経営方針の展開」 総合理工学研究科 教授 岩崎日出男	9
可視光応答性光触媒材料の評価 総合理工学研究科 准教授 古南 博	17
電源回路・パルス発生回路の製作およびキャパシタの充放電特性 総合理工学研究科 教授 中野人志	21
「総合技術監理」を開講して 総合理工学研究科 PM・客員教授 浅野昌也	23
第 1 回外部評価委員会報告とその対応 総合理工学研究科 PM・客員教授 浅野昌也	27
資料	35

資 料

資料目次

セカンドメジャープログラムの開発 プラズマプロセスを用いた材料創製とその構造解析 総合理工学研究科 教授 沖 幸男	37
セカンドメジャープログラムの開発 倒立二輪の制御 総合理工学研究科 准教授 原田 孝	41
特別講義・工場見学のレポートおよび講師コメント 総合理工学研究科 博士前期課程大学院生および各講師	45
大学と企業はここが違う！ 総合理工学研究科 SE 辻井康弘	67

編集後記

近畿大学大学院総合理工学研究科では、平成 16 年新しい概念の大学院「東大阪モノづくり専攻」（修士課程）を開設し、次いで平成 20 年には博士後期課程を開設した。そして、学生—教員—企業技術者が三位一体となった“教育の産学連携”によって、実社会と乖離しない技術者を育成するプログラムを構築してきた。この成果によって、平成 20 年度「東大阪モノづくりイノベーションプログラム」として文部科学省大学院教育改革支援プログラムに採択された。

本報告書は、「東大阪モノづくりイノベーションプログラム」の成果をまとめたものである。特に本プログラムの特徴である、セカンドメジャー制度におけるプログラム開発と演習結果報告、総合的な研究者・技術者の育成に携わってきた教員や企業経験者（SS&SE）の報告、外部評価委員会の報告、外部招聘講師による特別講義を受講した学生の報告、外部招聘講師のコメントなどを中心にまとめた。今回のプロジェクトは、数多くの企業の方々、教員、学生を巻き込んだ活動になったが、今後も本学において、教育改善が継続して行われることを確信している。

最後に、本成果報告書の作成にあたり、原稿の集約チェックから出版の段取りまでご尽力いただいた、東大阪モノづくりイノベーションプログラム事務局の向山智子女史に感謝申し上げます。（浅野昌也）

東大阪モノづくりイノベーションプログラム成果報告書

平成 22 年 12 月 18 日発行

編集 東大阪モノづくりイノベーションプログラム

発行者 近畿大学大学院総合理工学研究科

<http://www.kindai.ac.jp/>

印刷所 近畿大学管理部用度課（出版印刷）

無断複写・転載を禁ずる

